

ダンケルク (1964)

WEEK-END A ZUYDCOOTE

メディア 映画

ジャンル ドラマ 戦争

製作国 フランス/イタリア

色彩 Color

時間 123分

初公開日 1965/01/15

公開情報 ヘラルド

【解説】

1940年6月1日。激戦地ソムでの生き残りマーヤ曹長（ベルモンド）は、ダンケルクから本国に撤退する英軍に便乗し、フランスの窮状を訴える任務を拝した。分隊の友人にはベシミストの神父や、何かと要領のいい商売人など多士済々。マーヤは彼らと、土地も人心も荒れ果てたその地で英軍船の出港を待つ。その間に姉妹二人で屋敷を守る娘ジャンヌ（スパーク）と出会い、兵隊の暴力におびえる彼女をレイプから救って、二人の友軍兵を射殺する。戦争に醒めきったマーヤでも、さすがにそれはショックであったが、周囲の反応はいたって平静だ。そして彼はひょんな事から英軍船に潜り込むのだが、爆撃を受け、マーヤも岸に流される。海峡を越えることなく、海に浮かぶ無数のしかばね……。ジャンヌと結ばれたマーヤは、すべてをあきらめて彼女とともにこの地を去ろうと決め、浜辺の仮の住み家で彼女を待つのだが……。

広大な海岸にテントが無数に並び、強い日射しの中、何も前向きなことは始まらず、焦躁だけが募っていく。そんな生活を淡々とやり過ごしていく兵士たちの姿が戦争の一面の真実を確かに示している、ユニークな反戦映画。ここでのベルモンドは「勝手にしやがれ」や「気狂いピエロ」の彼と一脈通ずる虚無と優しさを漂わせ、いい感じである。

【クレジット】

監督	アンリ・ヴェルヌイユ	Henri Verneuil
原作	ロバート・メルル	
脚本	フランソワ・ボワイエ	Francois Boyer
撮影	アンリ・ドカエ	Henri Decae
音楽	モーリス・ジャール	Maurice Jarre
出演	ジャン＝ポール・ベルモンド	Jean-Paul Belmondo
	フランソワ・ペリエ	Francois Perier
	カトリーヌ・スパーク	Catherine Spaak
	ピエール・モンディ	Pierre Mondy
	マリー＝フランス・ボワイエ	Marie-France Boyer
	マリー・デュボワ	Marie Dubois